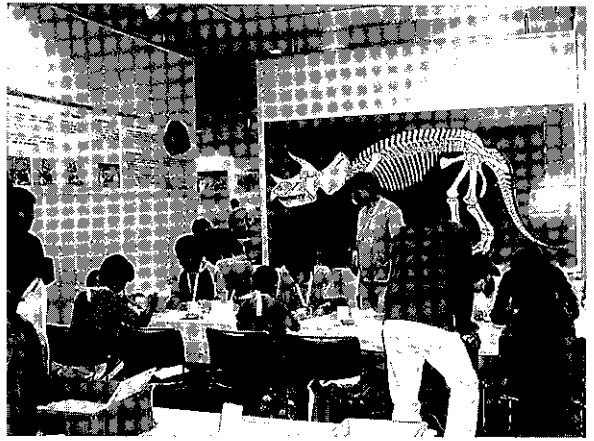


## 地質情報展にいがた 体験コーナー 「自分だけの化石レプリカを作ろう」

利光 誠一<sup>1)</sup>・中澤 努<sup>1)</sup>・坂野 靖行<sup>1)</sup>・河村 幸男<sup>2)</sup>・谷田部信郎<sup>3)</sup>

今回で6回目となった地質情報展の化石レプリカ体験コーナーでは、北海道産の白亜紀アンモナイト *Mesopuzosia pacifica* Matsumoto のビニールシリコン型を準備しました(第1図)。開催された3日間で、企画した私達の予想を大きく上回る216名の参加がありました(第2図)。会場の立地の関係から、新潟大学で同時開催された地質学会関係者は比較的少なかったようですが、“常連”となられた方々の顔もわずかではありますが見られました。

これまでの地質情報展で行ってきた化石レプリカ作製体験コーナーでは、大型パネルと指導者が手でみせる小型の解説パネルによってレプリカの作製方法を教えてきましたが、体験コーナー参加者の中には、イベントの記念に、あるいは帰宅後にゆっくりと見直したり、独自にレプリカを作製する際の参考にするための簡単な資料を要望する声が時折ありました。これまでこれらの要望に対しては



第2図 化石レプリカ作製コーナーの様子(新潟市民芸術文化会館りゅーとびあ)。左側の壁にジオ君がインストラクターとして登場するレプリカ作成の解説パネルを設置しました。

著者らが記した地質ニュースの抜刷り(1990年7月号77-80頁及び2000年2月号29-30頁)を提供することで対処してきました。今回は記念に持ち帰ることやもう少し見やすく印象に残るようにすることを考え、著者の一人、河村が自らの経験も考慮しながら解説パネルとリーフレットを作製し、参加者に配付しました。この解説リーフレットでは、つくばにある地質標本館のキャラクターでもあるジオ君がインストラクターをつとめ、参加者の評判も上々でした。

TOSHIMITSU Seiichi, NAKAZAWA Tsutomu, BANNO Yasuyuki, KAWAMURA Yukio and YATABE Nobuo (2003): A special section for an experience of a making fossil replica in the Niigata Geologic Exhibition.

<受付: 2002年11月30日>



第1図 化石レプリカの原標本となったアンモナイト *Mesopuzosia pacifica* Matsumoto (GSJ F8546), 直径約7cm.

1) 産総研 地球科学情報研究部門  
2) 産総研 地質調査情報部  
3) 産総研 地質標本館

キーワード: 地質情報展にいがた, 化石, レプリカ作製, 体験型イベント